

夏のおすすめ図書



この夏は、本との出会いを楽しもう！

図書館スタッフがさまざまなジャンルからおすすめの本を選びました。

新しい物語や知らなかった世界に出会ってみませんか？

多可町図書館



『北欧神話』
P. コラム/作
岩波書店（K164 コ）

古代スカンジナビアに伝わる神々と英雄たちの物語を分かりやすく紹介した一冊。主神オーディン、雷神トール、美の女神フレイヤなど個性豊かな神々が登場し、世界の創造から終末までの壮大な神話体系が描かれています。神々と巨人の戦い、人間界との関わり、死と再生の物語などを通じ、北欧の世界観を知ることができます。



『科学メガネ読本』
池内了/著
KTC 中央出版（404 イ）

日常に溢れているあらゆる事象を科学的な目でみる面白さを語ったエッセイです。貝殻の縞模様が伝える地球の歴史や、宇宙人が地球にやってこないわけ、花咲かじいさんの灰の謎など、興味のあるところから読むのがおすすめです。自然の奥行きや深さを感じ、自然の謎に立ち向かう人間の取り組みや努力を知ることができるでしょう。



『作ろう！
フライドチキンの骨格標本』
志賀健司/著
緑書房（K457 シ）

この本は、あの「ケンタッキーフライドチキン（KFC）」の「骨付きチキン」を食べたあとの骨を使って、二ワトリの骨格標本を作ってみよう！という内容です。「骨付きチキン」には 5 種類の部位があり、家にある道具と薬局で買える薬品を使って手軽に作ることができます。骨格標本がどうやって作られているのか確かめてみましょう！



『怪盗レッド THE FIRST』
秋木真/著
KADOKAWA（K913 ア）

中学に入学したばかりの藤白圭一郎のもとに毎日顔を出す先輩、紅月翼。学校一の人気者がなぜか圭一郎につきまとう。そんな中、圭一郎のまわりで事件が発生し、一緒に解決していくことになるのですが…。

角川つばさ文庫で開始された『怪盗レッド』シリーズ。そのストーリーのすべてはこの圭一郎の物語から始まります。



『星くずクライミング』
桧崎茜/作
くもん出版（K913 カ）

目の不自由な人が壁を登る、ブラインドクライミングに出会った中学 1 年生のあかり。クライマーをフォローするナビゲーターという役割で参加して、この競技に感動します。ペアを組むことになったのは、同い年の昴。身体障害者としての彼の世界を知りながら、秋の大会を目指すふたりの挑戦が始まります。



『ひこぼしをみあげて』
瀧羽麻子/作
偕成社（K913 タ）

中学に入学した千春は、友だちの那彩に誘われて何となく天文部に入部しました。最初は宇宙や星に興味なかった千春ですが、3年生の二階堂先輩や片瀬先輩、そしてユニークな 2 年生の先輩たちと活動する中で少しずつ星に興味をもつようになります。はるかに煌めく星たちを眺めながら、千春は大きく成長していきます。



『おにのまつり』
天川栄人／著
講談社（K913 テ）

中3のあさひは、先生から問題児の救済措置といわれているうらじゃプロジェクトのコーチを頼まれます。4人の問題児とともに「鬼の祭り」といわれる岡山の夏の風物詩うらじゃに参加することに…。5人は、踊りの練習を重ね、宇羅伝説について知るうちに互いへの理解を深め、それぞれが抱えるトラウマ（鬼）を乗り越えていきます。



『孔雀のパイ』
ウォルター・デ・ラ・メア／詩
瑞雲舎（931 テ）

ウォルター・デ・ラ・メアは、20世紀前半に活躍したイギリスの詩人・小説家です。大人を対象にした作品も書きますが、子どものための詩や物語で優れた才能を発揮しました。異国の雰囲気たっぷりのデ・ラ・メアの詩をじっくり味わってください。アーディゾーニのさし絵も詩にぴったりと花を添えます。



『アーデン城の宝物』
E・ネズビット／著
東京創元社（K933 ネ）

かつての名門・アーデナー族の血をひく、エルフリダとエドレッドの姉弟。エドレッドが10歳になる前日、2人は大きな秘密を知りました。荒れ果てたアーデン城を見下ろす丘の上で、ある呪文を唱えれば、隠された宝を得ることができるのです。白いモグラの魔法により、姉弟は過去へと、宝物を探す旅に出ます。



『天国を出ていく』
エリナー・ファージョン／作
岩波書店（K933 フ）

子どものころ、さまざまな本であふれた「本の小部屋」で、本を読みふけていたという作者。その豊かな読書体験が母胎となり、多くの幻想的なおとぎ話が生まれました。姉妹がうたっている短い歌から着想を得た表題作『天国を出ていく』のほか、不思議な余韻が残る、美しい自選短編集です。



『怪盗ルパン謎の旅行者』
モーリス・ルブラン／作
理論社（K953 ル）

ぼくは、パリから友人宅へ向かうための特急列車で、女性客と出発後に飛び乗ってきた謎の男と同じ車両で夜を過ごしていました。女性は、彼がルパンではないかと言うのです。眠っていると、その男に窒息寸前まで首をしめられ、ぐるぐる巻きにされると座席に転がされてしまいました。いったいこの男は、本当に怪盗ルパンなのでしょうか。



『イソップ株式会社』
井上ひさし／著
中央公論新社（Fイノ）

夏休みを田舎のおばあさんの元で過ごすさゆりと洋介。2人の元には、毎日、父・光介がつくった「お話」の手紙が届きます。のんびりとした田舎の日常と、平凡でありながら生き生きとした登場人物。父のつくるいろとりどりの「お話」に、和田誠の絵がそっと寄り添います。思春期にさしかかった姉と、飄々とした弟のやりとりも絶妙です。



『博物館のファントム』
箕作博士のミステリ標本室』
伊与原新／著
集英社（Fイヨ）

自然史博物館に持ち込まれた「呪いのルビー」が何者かに狙われるという事件が起きます。雑多な資料に埋もれつつある謎を、膨大な量の標本を整理する分類学者環を巻き込みながら、ルビーの謎を解き明かします。博物館で起こる不可解な6つの事件を、性格が全く異なるふたりが解決に導きます。



『銃とチョコレート』
乙／著
講談社（Fオツ）

ある日、少年リンツは父と行った露店で古い聖書を買ってもらいます。その聖書には地図が挟まっており、なんと世間を賑わせている怪盗ゴディバのものだったのです。そこでリンツは、子どもたちの憧れである探偵ロイズに手紙を送ります。リンツはロイズとともに地図の秘密を探ろうとするのですが…。